

令和5年度 第2回尼崎市食育推進懇話会 報告

1、日時 令和5年 10 月 23 日(月)午後2時～3時30分

2、場所 尼崎市立すこやかプラザ 多目的ホール B 室

3、出席者

【委員】三浦委員、横田委員、由田委員、吉田委員、金岩委員、濱田委員、宮本委員、
福本委員

【事務局】健康増進担当部(巽部長)、健康増進課(津田課長、岡本係長、島野、福本)
北部地域保健課(中川係長)、南部地域保健課(坂本係長)

4、欠席者

【委員】小笹委員、長尾委員、濱名委員、馬場委員、堀委員、小竹委員

5、資料

【資料1】第4次地域いきき健康あまがさき(素案たたき台)

6、議事録

○開会あいさつ

○議題

協議事項…次期計画素案(たたき台)の構成、及び

分野3「栄養・食生活、食育」2つの柱のうち、1つめの柱「健康的な食生活の実践」
について

〈資料1に基づき、事務局より説明〉

発言者	発言内容
委員	次世代期は一般的な表現か。
事務局	分野8(すこやか親子)では、妊娠・出産期、乳幼児期、学童期、思春期という表現にしている。それ以外の分野については、妊娠期から18歳までの子どもを含み「次世代期」と表現している。
事務局	ライフステージ別の表現については、すでに計画策定をしている明石市を参考にした。
委員	補足説明を加えてはどうか。次世代期に妊娠期が入るのであれば、18歳未満で出産する人もいるため、次世代期と青壮年期を斜めに区切るなどオーバーラップする形で表してはどうか。計画全体で統一する必要があると思うので検討をお願いしたい。
事務局	補足説明を加えるなど、わかりやすい表記になるよう検討する。
委員	みなさんの取り組み「早寝、早起き、朝ごはん」は誰に対する取組を表しているのか。自分でできる子どもは自分で実践するだろうが、家庭状況によりできない

	子どもが増えている。子どもの責任だけではどうにもできない部分をどうフォローするのか。スローガンのようにたてまえだけでは改善できないのではないか。
事務局	みなさんの取り組みは、市民や家庭だけではなく、学校・園、企業・事業所、関係団体・地域なども含めた取組を示している。保護者の状況が様々なことは理解しているが、生活習慣は自然と確立されるものではなく、食事や睡眠などいろいろな生活リズムの中で獲得していくものである。子どもや保護者、家庭だけではできなくても、保育所・学校等などみんなで一緒に取り組む必要があることを方向性として示している。
委員	家庭だけではできないので、地域で一緒に頑張りましょうという表現を加えるなど、個人の責任のみにならないように検討してほしい。
事務局	検討する。
委員	歯科専門職の立場からすると「食べる力」という言葉に違和感を覚える。我々からすれば、咬合力、咀嚼力、嚥下力などをイメージするが、食育関係の独自の言い回しなのか
事務局	食育で育てたい「食べる力」＝「生きる力」を表現している。「心と身体の健康を維持できる」「食事の重要性や楽しさを理解する」「食べ物の選択や食事づくりができる」「一緒に食べたい人がいる(社会性)」「日本の食文化を理解し伝えることができる」「食べ物やつくる人への感謝の心」を示し、個々の成長発達に合わせた咀嚼力を育てることも含み、大きな意味での「食べる力」という表現をしている。
会長	次期計画は、食育の単独計画ではないので、分野ごとにイメージや捉え方が異なるのではないか。全体的に用語の使い方を統一し、説明等を加えてほしい。
委員	指標の数値目標値(高校生)が、実績値と差があると思うが。
事務局	朝食の喫食の目標値については、現計画では理想の100%であった。現計画で目標達成していない項目は据え置き、目標達成している項目は伸び率で計算、実績値が下がっている項目は現計画策定実績値の一割増にするなど、計画全体で考え方を整理した。なお、食事バランスについては、現計画では対象を成人とし目標達成したので、対象を3つに細分化し、それぞれ計画全体の考え方で目標値を設定した。
会長	(青壮年期)適正体重から外れている人もいるので、「維持・改善」のような表現をしてはどうか。
事務局	検討する。

協議事項…2 つ目の柱「持続可能な食を支える食育の推進」について

〈資料1に基づき、事務局より説明〉

発言者	発言内容
委員	共食はいいことであり、地域でのイベントで会食すること含まれると思うが、一人暮らしも多く、どう進めていくのか。
事務局	地域でのイベントなど共食する場が、コロナ前までに戻るような取組ができれば

	と思う。また、子ども食堂のように、子どもだけでなく、高齢者等も参加できる共食の場が地域で広がればと考える。
委員	月に一度子ども食堂を開催しているが、地域住民に情報がどこまで届いているのかわからない。たくさんの方に参加して欲しいが、状況把握ができずもどかしく、ボランティア活動だけで広げることへの限界を感じる。
委員	尼崎子ども食堂ネットワークの代表もしている。尼崎市では、子ども食堂は早い時期から立ち上がり、数も多い。民間の草の根運動として実施しており、子ども以外の地域の方がどのくらい参加できるかなど受入状況は個々に異なると思うが、取組を広めていくには行政(子ども青少年課)の支援が今後必要である。
事務局	子ども食堂における食材(野菜・果物)購入費用の補助や、管理栄養士による相談支援等、当課においても今年度から食育の取組を始めたばかりである。高齢者向けのふれあいサロンやふれあい喫茶等、食事・運動・社会参加と一体的に介護予防の取組も通して進めていきたい。
会長	(P10)「地域みんなで食育を推進しましょう」とあり、食育は子どもに限定したものではない。「食に関する学習会やボランティアなどに参加しましょう」や P11 に具体的な内容を書き込むなど検討をお願いしたい。
委員	共食の割合(成人)は頻度がわからないので、目標値の設定が高いかどうかの判断ができない。
事務局	「ほとんど毎日」「週に4～5日」「週2～3日」「週1日程度」共食する人の割合である。
委員	週1回以上であれば、頑張れるかと思う。頻度を記載してはどうか。
委員	「家族や友人、同僚などと一緒に、週1回以上、食事をする人の割合」にしてはどうか。
事務局	検討します。
委員	全体的なことだが、実績値に対する検証はしているのか。高校生の朝食喫食状況が悪化した原因は、コロナなのか、それ以外なのか。検証は難しいと思うが知りたい。
事務局	コロナ禍でいつもの生活習慣とは少し異なっている可能性はあり、アンケートから読み取れる傾向、例えば「市内・市外在住の差はない」「兵庫県と比べ欠食傾向にある」などは分析しているが、原因までは検証できていない。
委員	小中は授業の中で回答したが、今回から高校生は各自で回答することになり回答率が下がった。高校生はたまたま回答する人の中では朝食を食べない人が多かった可能性をぬぐい切れない。前回と回答方法が異なるので、単純に前回のデータと比較して目標値を設定することに無理があるのではないかと。また、今後低くなった理由を考察するのであれば、アンケートに「なぜ朝食を食べないか」を加えるべきである。
会長	すぐに調整することは難しいと思うが、次回調査の際には必要に応じて微調整してもらえるとよい。
事務局	検討する。

協議事項…1 つ目「健康的な食生活の実践」、2 つ目「持続可能な食を支える食育の推進」に係る「市が取り組むこと」について 〈資料1に基づき、事務局より説明〉

発言者	発言内容
委員	妊娠期に次世代期が含まれるのなら、妊娠期の取組から記載するほうが読みやすいのではないか。
事務局	色々な意見があるのだが、計画全体を通して整理する。
委員	高校生に対する取組が明記されていないのはなぜか。
事務局	具体的な取組案が明示できていないが、「早寝、早起き、朝ごはんの啓発」「給食を活用した食育」は継続して取り組む必要があると考える。
委員	体験活動の例として「菜園・栽培や料理」と表記されているが、「栽培・収穫や料理などの体験活動」のほうがわかりやすいのではないか。
事務局	保育園・幼稚園では、体験活動の種類として菜園活動という言葉を使っているが、表現については検討する。
委員	中間層の市民にはこの内容でいい。しかし、尼崎市の子ども食堂の数が多いのは、子ども食堂に頼らざるをえない人が多いということである。高齢者も同様、バランスよく 3 回食事することができる人は、配食サービス等を利用できる人である。このような現状を示した上で、支援を考えないと改善はしない。難しい話ではあるが、現状を深刻に考えて欲しい。例えば、朝食を提供している自治体もあり、いいか悪いかではなく現状を改善するための対策である。
事務局	行政と地域、事業者等と協力連携して取り組むべきであると考えます。
副会長	重点的な取組や施策を明確にしなければ改善はしない。民間に頼るのではなく、市が頑張っている姿勢を示したほうがいい。次世代期という表現は、違和感がある。
会長	高校生の取組、セーフティネットの取組に対する記載が必要という意見があり、検討していただきたい。一点、スーパー等関連事業者との連携、食の健康協力店、給食施設等と連携した食環境整備という順番の方がいいのではないか。
事務局	検討する。
委員	食育月間、食育の日の取組は、具体的に 6 月食育月間、10 月ひょうご食育月間、毎月 19 日食育の日など記載したほうが啓発になるのではないか。
事務局	検討する。
会長	本日の意見を踏まえ、資料1の素案(たたき台)は修正され、10 月 26 日計画策定部会に提出されるということでよいか。
事務局	そのとおり。10 月 26 日、第 3 回尼崎市地域保健問題審議会(計画策定部会)を予定している。会長には委員として出席いただき、本日の意見も踏まえ、ご意見いただきたい。
会長	承知しました。

協議事項…ひょうご食育月間の取組について

〈事務局より説明〉

発言者	発言内容
委員	啓発ポスターやホームページなど、性別等イメージを固定化した表現になっているように感じた。
事務局	以前いただいた意見を参考に、ホームページは男女に偏らないよう修正したが、今後、啓発物を作成する際はご意見を参考にする。
委員	農業祭で残った野菜など、子ども食堂に提供してもらい助かっている。
会長	引き続き、活動をお願いしたい。
事務局	ひょうご食育月間(10月)の取組報告を11月10日(金)までにメールやFAX等にて健康増進課までお願いしたい。

○協議事項…今後の予定について

○閉会挨拶

以 上